山登如

2021年度
付中通信第９号

コロナ禍の楽学その2

2021.9.24（金）　　高水高等学校付属中学校長　宮本　剛

　次に２の件ですが、真っ先に思うのは、高校２年生です。六年制は一年次に海外修学旅行を組んでいましたが、２回の延期の末、この 10 月に国内（立山・黒部方面）修学旅行を敢行します。この旅行だけは是が非でも成功させたいと切に願っています。一方、校外活動は昨年度ほとんど見送ってしまいましたが、今年度から Zoom 等のオンライン会議システムを活用し、例年参加してきた研修会等には生徒を積極的に参加させています。
また、海外姉妹校で時差の少ないオーストラリアのサザンクロス校とは、Skype を使った交流授業で相変わらず盛り上がっています。
　去る６月には台湾の建成国民中学校と親善友好の意向書を交換し、アジアに所在する学校と始めて関係を築きました。コロナ禍でもネットを利用すれば、交流を進める

『教育の情報化ビジョン』より（平成 23 年文部科学省）

ことができるし、互いにそういう機運が高まっていると感じています。現在中２生の学年行事を中心に交流授業を計画中です。

最後は３ですが、ＩＣＴを活用した授業のレベルアップの方向性には２つあることが知られています。

まず一つは、学校ではアクティブラーニングによる協働学習を中心に持ってくること。これは、問題の発見、課題の設定、解決のプロセスを学ぶことこそが学校本来の役目であり、家庭で進めることが難しいこの学習方法こそ授業の中心に据えるべきだという考え方から生まれたものです。

もう一つは、ＡＩアプリによる生徒の個別最適学習を授業でも取り入れ、ゆくゆくは家庭学習の王道とすること。これは、習得能力に個人差があることを前提に、個々人に見合った学習進度を保障して、無理なく確実に学習を進められるようにしたいという考え方から出ています。そして今、個別最適学習は一人一台タブレットの実現で、その可能性が現実のものとなりました。

一見相反するベクトルを持つ二つの学習方法ですが、これらを同時に成り立たせるためには教師のスキルアップが絶対不可欠です。これからしばらくの間は、二つの学習方法のベストミックスを目指して、研修や実践に熱を入れることになるでしょう。